



GOOD NEWS ときのかえ

War Cry

1月号

福音版
2019
January
No.2777

二〇一九年 一月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

山を砕く神の力

もう一步も前に進むことができないと思う経験を誰しも一度は味わいます。けれども、あきらめてしまう前に、神は苦難を乗り越える力をあなたに与えようとされている、ということを知っていただきたいのです。神は、あなたの人生を造りかえる力の源です。

ヨープ・ズートメルクはオランダ生まれの自転車競技の選手です。彼は、一九八〇年に優勝するまで、試合に十六回出場し、そのうち二位を五回経験しました。なんとという忍耐力でしょう。多くの成功者の成功の秘訣は、決してあきらめないことです。

ケネス・メイナ―

使徒パウロは、迫害と苦難を耐え、彼の後輩テモテにも、現実を見さだめて失望に立ち向かうなら、希望をもち続けることができる、と励ましました。パウロは人生の最後に、テモテにこう書き送りました。

「わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。」（テモテへの手紙二・4章7節）
わたしたちも、与えられた自分の人生における戦いを戦い抜く時、神から勝利の王冠をいただくことができます。

信仰は、自分自身の弱さを神の力へと結びます。パウロは、アンティオキア、イコニオン、リストラ、と各地で激しい迫害を経験しました。アンティオキアでは、宗教指導者からの強硬な反対に遭い、イコニオンでは、異邦人とユダヤ人が、彼らの指導者と共謀して彼を殺そうとしました。リストラでは石で打たれ、死ぬ寸前にまで至ったのです。けれども、テモテへの最後

の手紙の中で、パウロはこれらの三つの都市を、自身の忍耐の例として記しています。そうして彼は、これらの苦難と苦痛の中に表された神の真実さを、テモテに思い起こさせました。

あなたの行く手に大きな山があったとしたら、あなたははどうするでしょうか？
ダシユラト・マーンジー

は、インドの小さな村で一生を過ごした男性です。彼は、病気になった妻が、治療に向かう山越えの途上で息絶えたことがきっかけで、二十二年かけ、たった一人で、ハンマーとのみを使って地元の山を貫く道を作りました。その結果、それまでの五十五キロの道が、ほんの十五キロに短縮されたのでした。彼は、

「私が山を打ち砕き始めたとき、人々は、私がおかしくなったと言いましたが、かえってそれが私の決意を固めました」と言っています。

聖書には、イスラエルの民が捕囚から帰還した時、イスラエルの指導者の目には破壊された神殿を再建することは不可能に見えたことが記されています。民は彼の心を挫かせ、再建に反対しました。しかし、神は預言者ゼカリヤを指導者に

送り、武力にも権力にもよらず、ただ神によってできることを思い出させました（ゼカリヤ書4章6節）。指導者は、神が神殿を建て直し、共同体の回復という難題の山を平らにしてくださったと信じました（同7節）。

わたしたちは、目の前の山にどう対処しますか？
その時、自分の力に頼るか、神の霊の力に信頼するか、二つの選択肢があるでしょう。神の力を信じるなら、神は山を打ち砕く力、もしくは、山を乗り越えさせる力と持久力を与えます。

人間の力だけでは達成できないことも、信仰によってなすことができるのです。励ましの祈りをお届けします。

天の父なる神様、あなたにより良く仕えるための強さと忍耐力を与えてください。物事が厳しくなろうとも落胆するのではなく、神よ、あなたに頼ることができよう助けてください。あなたは、最良で完全な、そして喜びをもたらすあなたの働きを、私になさせることのおできになる力ある神だからです。

イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。

（救世軍士官（伝道者）・司令官

Photo on VisualHunt



神様のなさることは時にかなって美しい

幼い頃の素直な疑問

私は新潟県新潟市のクリスチャンホームに生まれました。

父や父の兄弟も通った日本キリスト教団の二葉幼稚園に入園し、毎週日曜日は教会学校（子どものための礼拝の後、両親の横で大人の礼拝にも出席していました）。

幼い私には「信仰」とはどういうものかよくわかりませんでした。親としてもクリスチャンとしても尊敬する父の姿を常に傍らで見ていたからでしょうか。小学校に上がると、次第に教会から遠のいた生活に

が楽しみで通っていました。親戚をはじめ、周囲にクリスチャンが多い環境で育った私でしたが、成長するにしたがって、

「どんな時にも人を選ぶことなく、隣人を愛しているのか？」という疑問を感じ始めるようになり、親としてもクリスチャンとしても尊敬する父の姿を常に傍らで見ていたからでしょうか。

小学校に上がると、次第に教会から遠のいた生活に



ピアニスト 浅野 あゆみ

武蔵野音楽大学器楽学部器楽学科（ピアノ専攻）卒業。2000年よりジャズミン室内楽クラス他にて室内楽の研鑽を積んでいる。2015年ちちぶ国際音楽祭にてピアノコンチェルトに出演他、様々な演奏活動をおこなっている。

大西家と救世軍

私の父大西淳は、救世軍に所属する三代目のクリスチャンです。父の祖母にあたる大西テイが、明治時代に救世軍の路傍伝道をきっかけにして救世軍新潟小隊

（教会にあたる）に導かれたのが、大西家と救世軍との出会いでした。父も、子どもの頃にティと共に救世軍に導かれた経験から、大学時代には京都小隊に大変お世話になったそうです。父の母いしも、新潟小隊の家庭団（女性の働き）の手伝いをしており、新潟小隊との交友がとても深かったそうです。

父は、四十代で三代目として祖父の会社を継いでからは寝る間も惜しんで仕事中心の生活を送っていました。母の召天をきっかけに新潟小隊に通う信仰生活に戻りました。

一方、母を亡くしてから私は、三人の子どもたちの子育てに追われながらの仕事漬けの生活が十数年続きました。ところが、新潟で暮らしをしていた最愛の父の



最愛の母。信仰に導いてくれた父（救世軍新潟小隊の前で）



1968年『ときのコエ』11月15日号に掲載された、曾祖母大西テイの記念会の記事。

神様のご計画によって

二〇一七年春、父はいよいよ会社経営や一人暮らしが難しい状態になり、生を受け、七十八年間慣れ親しんだ新潟を離れ、私の住む横浜の施設に入ってもらったという苦渋の決断をする事になりました。

「これまでの環境をすべて失う父に私ができることは……」そう考えた私は、〈救世軍で、変わらずに信仰生活を続けさせてあげること！〉と考え、父が横浜小隊に通うことができるよう、自ら引率をすることにしました。

ところが、引率だけのつもりで参加していた私でしたが、回を重ねていくうちに、熱を込めて語る徳永幸次郎小隊長（牧師にあたる）の聖書のメッセージにどんどん引き込まれていく自分に、またそのメッセージに不思議な力が働いていることに気づき始めました。さらに、ちょうどその頃、〈神様の御業によって救わ

れた〉という出来事が、次々と重なり、〈長年待ち望んでいた信仰への扉が私に私にも開かれた〉と感じ、うれしくてたまりませんでした。私の信仰の扉が開かれるタイミングは、幼少時代でも母の召天の時でもなく、〈今だ。ついに神様は私を導いてくださった!!〉と感じたのです。

そして、二〇一七年のクリスマスの日曜日、司令官ケネス・メイナード佐の司式によって、救世軍兵士（信徒にあたる）になることができました。

「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。」（伝道者の書3章11節 新改訳聖書）私は、母が最期に遺してくれた、この聖書の言葉を実感し、心から感謝いたしま

音符を通して伝わってくる神様のメッセージ

もともとピアノを専門にしている私ですが、横浜小隊で、ピアノの奏楽（賛美歌を歌う際の伴奏や演奏）の奉仕をさせていただくようになりました。そして、数カ月経った頃からです、奏楽中に身体に不思議な感覚を感じるようになりました。

「これが、聖霊!」と体中に聖霊がくだっている不思議な感覚を実感する喜び

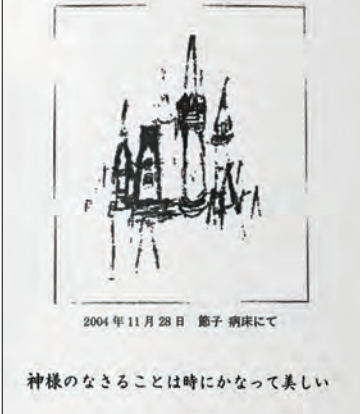
感じています。現在、二人の息子は、横浜小隊に、アメリカに留学中の娘は、二〇一七年の夏休みに横浜小隊に導かれたことがきっかけでアメリカの救世軍の小隊に通っています。私たちに伝道してくれた父への感謝を忘れずに、これから父に寄り添っていきたいと思います。

私は約五十年近くピアノを弾いているのですが、小隊で奏楽していると、まるで音符を通して神様からのメッセージが伝わってくるように感じるようになりました。言葉で表現するのは難しいですが、このような新たな角度で楽譜に向き合えるようになったことに感謝しています。

これからの人生も、すべてを神様に委ねて〈神様が私を用いてくださることなら、喜んでご奉仕したい〉という気持ちを大切に、また、さらに信仰を深めていきたいと思っています。神様のご計画に心から感謝しています。



（救世軍横浜小隊・信徒）



（写真上より）新潟小隊の皆さんと父（前列）。2017年のクリスマスの日曜日、兵士になった記念に、家族及び司令官夫妻と。母が晩年に病床で遺した絵と言葉。

キトリ
ご住所
ご氏名
ご氏名
ご住所

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。



世界をみつめて

〈インドネシア〉スラウェシ島の地震被災地支援を継続

2018年9月28日(金)、インドネシアのスラウェシ島中部のパル北部を震源として、マグニチュード7.5の地震が発生。その後11.3mの高さの津波が襲い、パルは壊滅的な被害を受けました。死者2,113人。さらに多くの死者が予想されています。約25万人の人々の家が流され、多くの人が避難所で生活しています。

救世軍の施設も少なからず被災しましたが、すぐに支援活動を開始。食事や飲料水、避難所を提供し、徐々にトラウマカウンセリングや医療支援に力を入れて活動をしています。

救世軍は、これまでに12,300食以上の温かい食事、緊急食品セット、飲料水、防水シートを提供しました。救世軍のウッドワード病院は、最初の地震後2週間に、敷地内で789人の患者を治療しました。建物の損傷は修復されましたが、道路が寸断されていたため、救世軍では移動診療所を12カ所に配置して、さらに950人が専門の医療を受けられるようにしました。また、救援支援のための情報をラジオで提供。遠隔地でも正確なニュースと情報を共有できるよう配信しています。(2018年10月22日 救世軍万国本営報)



〈アメリカ〉カリフォルニアの森林火災地域への支援

2018年11月、カリフォルニア州でも前例のない規模の火災が発生。影響を受けている方々への支援をおこないました。すでに少なくとも30人の命が奪われ、25万人以上の人々が自宅から避難。およそ7,000の建造物が破壊されています。(11月12日現在)

救世軍は、ビュート郡の6つの避難所で食事や生活用品を支給するなどの支援活動をおこないました。



〈日本〉救世軍エンジェル・ツリープロジェクト

クリスマスの季節に、子どもたちが必要としている衣服やおもちゃをプレゼントするプロジェクトが、企業や団体の協力によっておこなわれました。

困難な状況にある2歳から18歳の子どもたちのリクエストが記されたタグ(個人情報伏せ、年齢、性別、欲しいものが書かれた札)を支援者が選んでプ



レゼントを準備してくださり、救世軍を通して子どもたちに届けられました。初めての呼びかけでしたが、多くのご協力をいただきました。



救世軍とは? What is the Salvation Army?

心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man



救世軍は英国に国際本部を置くプロテスタントのキリスト教会です。創立者は英国のメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブース。1865年、東ロンドンのスラム街で、どのような境遇の人にもイエス・キリストを信じるならば救われる、と伝道を始め、飢えている人には食べ物、家のない人には宿泊場所を、仕事のない人には職業の斡旋を、アルコールにおぼれる人や搾取されている女性たちには、回復・更生のための施設を提供し、物心両面からの救いを目指しました。やがてこの働きを迅速に、効率良く推し進めるために、軍隊流の組織を取り入れ、「The Salvation Army」と名づけました。



日本では1895(明治28)年に働きが始まりました。日本人で最初に士官になった山室軍平は、社会問題に取り組み、廃娯運動や結核療養所設立などに力を尽くして、キリスト教界だけでなく、明治~昭和初期の社会福祉史にもその名を残しました。

現在、日本の救世軍では、43の小隊と、19の社会福祉施設、2つの病院(ホスピス併設)を通して、働きを進めています。

救世軍では、設立当初から街頭での伝道を積極的におこない、それまで教会に足を踏み入れたことのないような人々を信仰に導きました。

日本では毎年1月2日に、東京の上野公園で「初野戦」をおこなっています。(写真は2018年の初野戦) ※屋外での伝道集会のこと



(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

発行日 福音版・毎月一日発行

定価 福音版・奇数月十五日発行除く七月

福音版・一部 四〇円

クリスマス特集号(十二月一日号) 一〇〇円

振替・〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼 救世軍

印刷人 代表者ケネス・メイナード

編集人 寺澤 眞由子

〒101-0051 東京都千代田区

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営

印刷所 図書印刷株式会社